

検討の観点と内容の特色

書名	地学基礎	教番	2 東書・地基 701	判型・ページ数	B5判・204ページ
----	------	----	-------------	---------	------------

項目	観点	内容の特色
内容の選択・程度	<ul style="list-style-type: none"> 学習指導要領の教科の目標を達成するため必要な教材が適切に用意されているか。 基礎的・基本的事項の理解や習得のための適切な配慮がなされているか。 発展的な内容の取り扱いに対する適切な配慮がなされているか。 	<ul style="list-style-type: none"> 「地学基礎」で学ぶべき基本的な概念・事項が学習指導要領に照らして十分に取上げられている。また、これからの教育の方向性にあった要素が盛り込まれている。 節の冒頭に「Let's Start!」が配置されており、日常生活や社会とのつながりを実感できる内容から導入できるように工夫されている。 必要な実習、観察が適切な箇所配置されており、思考の過程に沿って探究的に学習が進められるように工夫されている。また、生徒どうしが自分の意見を他者の意見と議論する場が設けられており、主体性や表現力を育成できるように配慮されている。 資料性が高く理解しやすい図や写真が全体を通してバランスよく盛り込まれている。 各編末に「編末まとめ」、「コンセプトマップをつくってみよう」、「編末確認テスト」を配置し、地学の基礎的な概念についての理解を深め、確実に定着するよう工夫されている。 「発展的な学習内容」には、「発展」マークを付し、必修の学習内容と明確に区別している。
組織・配列・分量	<ul style="list-style-type: none"> 内容の組織・配列は、学習指導を有効に進められるように考慮されているか。 分量は学習指導を有効に進められるように考慮され、精選されているか。 中高の接続に対する配慮がなされているか。 弾力的な取り扱いに対する配慮がなされているか。 	<ul style="list-style-type: none"> 41 節構成で、配当時間内に終了させることが可能である一方で、「アースペディア」などの補足資料も豊富で、状況に応じた柔軟な授業展開が可能である。 節の構成が、「Let's Start!」→「? (学習の問いかけ)」→「(実習) →本文」→「! (節のポイントをまとめよう)」で構成されており、生徒が課題意識をもちながら学習を進められるように工夫されている。 中学での学習内容が「中学校とのつながり」として囲みで示されている。また、中学の学習内容と重なる内容も本文でしっかり取り扱うなど、中高の接続への配慮がしっかりなされている。 学習内容を広げたり、深めたり、振り返ったりするためのさまざまな「活動(やってみよう、考えてみよう、まとめてみよう)」が適切な箇所配置されており、授業のなかで適宜取り組むことができるように配慮されている。「発展」は、必修の学習内容と十分な関連を図り、程度・分量とも、過度な負担とならないように配慮している。 節単位で学習内容を区切っているため、指導順序の入れ替えもしやすく、たいへん使いやすくなっている。
表記・表現及び指導に対する工夫や配慮	<ul style="list-style-type: none"> 学習意欲を高めるための配慮がなされているか。 用語・記号の取り上げ方や記述のしかたは適切か。 生徒の自学自習への配慮や工夫がなされているか。 指導書や周辺教材での工夫や配慮がなされているか。 	<ul style="list-style-type: none"> 前見返しの「プロローグ」では「地学のむかしといま」として、地学が生活で役立つことを意識させる内容を扱っている。また、「探究の進め方」、「サイエンスコミュニケーション」、「科学倫理」なども扱っており、地学基礎の『授業開き』で使用できる内容にもなっている。 前見返しの折り返しは、広げると教科書本文と一緒に見ることができるよう構成されており、生徒の学習意欲を高める配慮となっている。 「コラム」「アースペディア」では、身近な話題、歴史、最新の話題を取り上げるなど、地学への興味や理解を膨らませる工夫がある。 本文が丁寧に書かれている。また、中学以降で読みを学習する漢字や太字の重要語句に振り仮名が付され、自学自習が十分可能である。 本文中に二次元コードが付されており、中学校の既習事項やアニメーション、動画が視聴でき、理解を深められるようになっている。 実習には、必要に応じて事故防止の注意マークが目立つようにつけられている。 指導資料は「動画コンテンツ」、「デジタル板書」などのデジタル教材が充実しており、ICTを活用した授業にも対応している。 第5編では、防災や環境問題、SDGs など今日的な話題を扱い、生徒自身がどのように暮らしていくかを、自ら考えられるようになっている。
印刷・造本上の配慮	<ul style="list-style-type: none"> 印刷の鮮明さ、活字の大きさ、行間、製本などは適切か。 環境保全や生徒の多様な特性に対して配慮しているか。 	<ul style="list-style-type: none"> 製本は針金を使用せず接着剤で製本してあり、金属を使用しないことによるリサイクル性を重視している。 用紙には再生紙を、インキには植物油インキを使用している。 図版等の色遣いがカラーユニバーサルデザインに配慮されている。また、本の中心までページを開くことができる製本のため、生徒が使いやすくなっている。
総合所見	<ul style="list-style-type: none"> 上記観点からみた、全体的・総合的な当教科書の特徴。 	<ul style="list-style-type: none"> 見開き構成、理解しやすい文章や図、写真など、自学自習にも適した教科書である。 ていねいな事項解説がなされ、科学的な見方や考え方、思考力・判断力・表現力を養えるだけでなく、将来の地球環境についても考えられるように配慮されるなど、非常に工夫された教科書である。 生活に密着した科目としての地学基礎を学習する利点を、生徒が感じることができる教科書である。